

令和2年度事業報告書

はじめに

令和2年度は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症により、私たちの暮らしや生活スタイルは一変し、それは今もなお終息が見えない状況となっています。サクラティエでは、カフェの利用客も減り、イベントやバザー販売の機会もなくなり、多大な影響を受けました。他の事業所でも、仲間の楽しみにしている取り組みが軒並み中止となり、いら立ちを見せる仲間もありました。その中で、各事業所ではコロナ対策の補助金も有効に利用し、感染拡大防止に努めながら、長期の休業することなく、できる限り通常の運営を続け、楽しい取り組みも小規模で行なうなどして、何とか令和2年度を終えることができたという感じです。

笑顔プランの課題であった「ともの家の新築移転」については、無事3月に完成し、4月開所を迎えることができました。新たな地域の皆さんとの交流を深めていきたいところです。

また、移転に向けて、市内300カ所近くの事業所に募金箱の設置をお願いし、たくさんの募金やご協力をいただくことができました。

笑顔プランの課題はこの事業で完了となりましたが、この成果を次のプラン作りへ繋げていきたいと思えます。

人材育成の課題では、職員の研修が6福祉会やきょうされんなどの大勢で集まる研修会はなくなり、リモートでの研修の形に変わって行われるようになりました。その中で、職員が団結していくことを目指して行ってきた実践交流会は、時期をずらし12月に大きな会場を借りて実施することができました。今後も、事業所間の交流連携を一層深め、綾部福祉会の職員の一体感を持てるように継続したいと思っています。

組織の安定については、まだまだ課題が多いです。理念を大切に、個々を大事にして、それぞれの事業所、福祉会全体がみんなで力を合わせて、今後も各取り組みを進めていきたいと思えます。

綾部福祉会の各事業の取り組みは以下の通りです。

1. 事業所状況

(1) 在籍者(3.3.31現在)

◇あやべ作業所《多機能型》	定員50名	現員68名
・生活介護事業	定員40名	現員51名
・就労継続支援B型事業	定員10名	現員18名
・訪問生活介護事業(市委託事業)		登録者 2名
・日中一時支援事業(市委託事業)		登録者 5名
◇ともの家《多機能型》	定員36名	現員33名
・就労継続支援B型事業	定員30名	現員33名
・就労移行支援事業	定員 6名	現員 0名
◇ワークショップサクラティエ		
・就労継続支援B型事業	定員20名	現員22名
◇グループホーム「ゆうゆう荘」	定員 6名	現員 6名
・共同生活援助事業		
◇ゆらりんホーム	定員 4名	現員 4名
・共同生活援助事業		

◇にっこりホーム

定員10名

現員10名

- ・共同生活援助事業

◇生活支援センター「えがお」

- ・相談支援事業

◆障害種別（3.3.31現在）

	知的	身体	重複	精神	その他
あやべ作業所	34	2	15	17	1
訪問生活介護			2		
ともの家	19	2	2	12	0
ワークショップサクラティエ	16	0	5	0	1
ゆうゆう荘	3	0	2	1	0
ゆらりんホーム	4	0	0	0	0
にっこりホーム	10	0	0	0	0

◆年齢層（3.3.31現在）

あやべ作業所	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	2	7	12	10	9	7	2	49	44.3
女	0	4	5	2	2	5	1	19	46.1
計	2	11	17	12	11	12	3	68	43.6
ともの家	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	1	1	4	2	4	6	1	19	50.2
女	0	4	2	2	2	1	3	14	46.9
計	1	5	6	4	6	7	4	33	48.8
サクラティエ	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	1	2	1	0	0	0	4	32.7
女	0	6	8	3	1	0	0	18	33.8
計	0	7	7	4	1	1	0	22	33.6
ゆうゆう荘	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	0	0	0	3	3	0	6	60.8
ゆらりん	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
女	0	0	1	1	2	0	0	4	48.8
にっこり	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	計	平均年齢
男	0	0	5	2	0	1	0	8	42.3
女	0	0	0	0	0	0	2	2	74
計	0	0	5	2	0	1	2	10	48.6

(2) 職員体制

◇あやべ作業所 多機能型（生活介護・就労継続支援B）（訪問生活介護・日中一時）

- ・管理者……………1名
- ・主任……………1名（サビ管兼務）
- ・サービス管理責任者…2名
- ・事務員……………2名
- ・調理員……………2名
- ・生活支援員……………20名
- ・看護師……………1名
- ・訪問生活介護支援員…1名
- ・日中一時支援員……………1名

※運転手…3名（業務委託）

合計30名

◇ともの家

- ・管理者…………… 1 名
- ・サービス管理責任者… 1 名 (兼務)
- ・事務員…………… 1 名
- ・職業指導員…………… 4 名
- ・生活支援員…………… 3 名
- ・弁当補助員…………… 2 名

合計 11 名

◇ワークショップサクラティエ

- ・管理者…………… 1 名
- ・サービス管理責任者… 1 名 (兼務)
- ・事務員…………… 1 名
- ・職業指導員…………… 4 名
- ・生活支援員…………… 2 名
- ・作業補助員…………… 1 名

合計 9 名

◇生活支援センター「えがお」

- ・管理者…………… 1 名 (相談員兼務)
- ・相談員…………… 3 名
- ・事務員…………… 1 名

合計 4 名

◇グループホーム「ゆうゆう荘」

- ・管理者…………… 1 名 (兼務)
- ・サービス管理責任者… 1 名 (兼務)
- ・生活支援員…………… 1 名 (交代制)
- ・世話人…………… 1 名 (交代制)

合計 4 名

◇ゆらりんホーム

- ・管理者…………… 1 名 (兼務)
- ・サービス管理責任者… 1 名 (兼務)
- ・世話人…………… 1 名 (交代制)

合計 3 名

◇にっこりホーム・にっこりⅡ

- ・管理者…………… 1 名 (兼務)
- ・サービス管理責任者… 1 名 (兼務)
- ・生活支援員…………… 2 名 (交代制)
- ・世話人…………… 2 名 (交代制)

合計 6 名

(3) 開所日数と利用状況等

◇あやべ作業所 (生活介護事業)

開設日数	246 日 (昨年度 248 日)
特別開所日 (土曜日等)	7 日 (昨年度 12 日)
延利用者数	9,706 人 (昨年度 9,032 人)

1日平均	39.4人(昨年度36.4人)
利用率	81.9%(特別開所日は除く) (昨年度78.7%)
特別開所日延利用者数	134人(昨年度245人) (1日平均19.0人)(昨年度19.0人)
特別開所利用率	38.5%(昨年度は43.0%)

◇あやべ作業所(就労継続支援B型事業)

開設日数	246日(昨年度246日)
特別開所日(土曜日他)	7日(昨年度11日)
延利用者数	3,122人(昨年度2,602人)
1日平均	12.7人(昨年度10.6人)
利用率	76.8%(特別開所日は除く) (昨年度79.7%)
特別開所日延利用者数	20人(昨年度46人) (1日平均2.8人)(昨年度4.2人)
特別開所利用率	16.6%(昨年度は28%)

◇あやべ作業所(訪問生活介護事業(市委託事業))

延利用者数	54人(昨年151人) コロナの影響で利用減
-------	------------------------

◇あやべ作業所(日中一時支援事業(市委託事業))

延利用時間	介護なし	6時間(昨年度30時間)
	介護あり	252時間(昨年度188時間)
	医療的ケア	104時間(昨年度260時間)

※入院時コミュニケーション事業 0時間(昨年度実績なし)

◇ともの家(就労継続支援B型事業)

開設日数	246日(昨年度240日)
延利用者数	6,096人(昨年度5,834人)
1日平均	24.8人(昨年度22.1人)
利用率	75.2%(昨年度76.2%)

◇ワークショップサクラティエ(就労継続支援B型事業)

	火曜定休・第2第4水曜休 土日交替出勤
開設日数	263日(昨年度293日)
延利用者数	4,808人(昨年度4,525人)
1日平均	18.2人(昨年度15.4人)
利用率	82.7%(昨年度75.9%)

◇グループホームゆうゆう荘

年間開設の延日数	365日
延利用者数	2,069人(昨年度2,082人)
1日平均	5.7人(昨年度5.7人)
利用率	94.5%(昨年度95.1%)

◇ゆらりんホーム

開設日数	365日
延利用者数	1,168人(昨年度1,149人)
1日平均	3.2人(昨年度3.1人)
利用率	80.0%(昨年度78.7%)

◇にっこりホーム

開設日数	365日	↓昨年度はにっこりⅡを含んだ数
延利用者数	3,567人	(昨年度3,929人)
1日平均	9.8人	(昨年度10.8人)
利用率	97.7%	(昨年度97.8%)

2. 実践

①作業

◎あやべ作業所

令和2年度のあやべ作業所は、65名の仲間でスタートをした。年度途中で5名の利用が始まり、2名退所があり3月時には68名の利用者となった。毎日通所することを希望する方ではなく、週に1回ないし2回の通所を希望される方も増え、他市から綾部市へ引っ越したために利用される方もあった。作業所づくりに貢献していたメンバーがお亡くなりになるということもあった。

65名のメンバーは5つのグループに分かれ、働く(仕事)ということを軸に、障害の程度に関わらず、働きたい、〇〇したいという思いの実現への支援を行ってきた。機能訓練や仕事以外の取り組みもプログラムに入れ、仕事以外の時間も大切にしながら、個別の課題への対応もできるように取り組んできた。常時医療的ケアが必要なメンバーも2名利用している。

新型コロナウイルスの影響を受け、外部での販売は全くなく、その分売り上げは減少になったが、コロナに負けず、注意しながら支援を行ってきた。

ひかり班 13名 職員 3名

作業を中心とした実践を行っていますが、肢体障害のメンバーもあり、機能訓練も行っています。

<主な作業>

醤油、食品加工(クッキー等)、資源回収、西部グラウンド整備等

すみれ班 12名 職員 4名(常勤換算3.8人)

作業と生活支援が半々。醤油ラスクもがんばってます。

<主な作業、取り組み>

食品加工(クッキー等)、資源回収、アルミ缶プレス、下請け作業等

イヌ班 7名 職員 3名

障害の重い活動的なメンバーのグループで、ほとんど屋外での活動をしています。

<主な作業、取り組み>

資源回収等・散歩、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

すずらん班 18名 職員 4名(常勤換算3.2人)

一人暮らしや高齢の方が多く、生活をサポートすることも課題になります。週に数回の利用の方が増えました。

<主な作業、取り組み>

下請け、縫製作業等・散歩、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

さくら班 13名 職員 5名 (常勤換算4.8人)

障害の重いメンバーで、医療的ケアを必要とする方もいます。車イスの方には、機能訓練も行っています。

<主な作業、取り組み>

アルミ缶プレス、下請け作業、配膳等・機能訓練、体力づくり、社会参加、生きがいを重視した取り組み

主に車イスの利用者＝パン作業、給食の配膳

デイサービスの利用 2名 職員1名

月に数回の利用を希望される方があり、グループに所属するのではなく個別に対応した方が過ごしやすい方の利用をデイサービスの5つのグループとは別枠で位置づけて取り組んでいる。

2名の方の利用があったが、長期入院中の方が病気のためお亡くなりになる。

<主な取り組み>

足浴、食事、入浴

訪問生活介護

今年度も2名の利用者（在宅2名）の所に訪問して取り組みを行ったが、新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、訪問を自粛されることもあり、訪問日数は減る。

訪問の製品「あやころちゃん」は、所内販売で売り上げを補った。

***作業等**

- ・ 利用者の工賃505円を維持。年度末手当も支払う。
- ・ 「オーダーチーズ」様より2020年度もあやぼうろの大量注文。
- ・ 「醤油ラスク」好調。
特産館や京都のほっとはあとセンターのお店でよく売れている。
- ・ 特別市民の記念品に使用。醤油500ml。
- ・ ふるさと納税の返礼品に醤油6本入りが採用されている。取扱い業者が2社になる。
- ・ 時節柄、マスクの下請けを行う。
綾部市人権推進課より新型コロナウイルスでの差別や偏見を防ぐための啓発活動用のシトラスリボンの製作を請け負う。

★令和2年度工賃実績

年間売上高 : 1381万円 (昨年度1426万円) <あや作全体>
工賃支払総額 : 630万円 (昨年度 619万円) <生活介護>
工賃支払総額 : 231万円 (昨年度 196万円) <就労B>
平均時間給 : 171円 (昨年度 160円) <あや作全体>

◎ともの家

コロナ禍の中、令和2年度補正予算で予算化された「新築移転」に全力を注ぐ1年となった。春先から、笑顔プランに基づきプロジェクト会議を開催し、課題整理と進捗状況を確認してきました。年明けから、毎週ともの家全職員で移転に向けての臨時職員会議を開催し、1人1人の役割を明確にしながら全員で取り組んできた。

ここ数年、職員の入れ替わりが激しかったが退職者もなく、秋からは移転後の体制も見据え1名正規職員希望者を迎えることができた。職員11名。

仲間は春から支援学校卒業生男性1名を迎え、33名の仲間が通所する。高齢化が顕著で60歳以上

の仲間が1/3となった。コロナ禍もあり、例年通りの行事や取組みなど企画、参加ができず、旅行も移転後に…と断念した。なかなか外出の機会も持てないストレス軽減のため、休日に2階で少し高いお弁当をみんなで食べる…という自治会の取組みを行った。

○弁当

コロナ禍の影響からか配食のニーズが高まり、春先から200食を超える注文が入る日が増え、年間通じ多忙を極めた。一方で、綾部高校、東分高、府立工業高校の3校でのおにぎり販売は中止などの措置を受け減収となった。前年比、約200万円程度の売り上げ増となった。

○メンテナンス

今年度も保健福祉センター・いこいの村梅の木寮ユニット棟・京都府綾部地域振興局庁舎・綾部市社協の清掃作業を受託し、フル稼働で業務にあたった。例年受託している水無月まつりの「万灯」作業はコロナの影響でなくなり、数年来の課題であった清掃作業の箇所数を増やす取組みを行った。結果、週1回程度のビルメンテナンスの作業を受託することができた。また、契約更新時に最低賃金の値上げ率分の受託料引き上げ交渉を行い、それぞれ値上げしてもらうことができた。

★令和2年度工賃実績

年間売上高 : 2781万円 (昨年度2470万円)
工賃支払総額 : 1384万円 (昨年度1410万円)
平均工賃月額 : 約4万円 (昨年度 約4万円)
平均時間給 : 約550円 (昨年度 約550円)

◎ワークショップサクラティエ

仲間23名・職員8名でスタートした。

仲間人数は4月と6月に2名退所、11月に1名の入所があり22名に。今年度末に1名の一般就労を理由とする退所が予定されている。対して職員体制は、作業補助職員1名の増員を図った。

就労支援事業については、前年冬からのコロナ禍の影響を直に受け、作業量が激減する中で

- ① できる限りの感染予防を講じる。
- ② 仲間の給料は下げない。

と二つの柱を立て、それぞれに対策を講じた。特に、②の原資となる作業収益を上げるために、「はらぺこ便」の復活を図ったが、これが広告にもなったのか「はらぺこ便」の実績を上回るご注文をいただくことにつながった。また、新しく「メンマの製造」にもとりかかった。今年度末の「中丹いちおし産品」に選出され、協力いただける団体も広がりを見せ、今後の展開が待たれる。

厳しい環境下にもありながらも昨年の販売実績を上回る結果が得られたことは、今後の自信につながる。

○カフェ

緊急事態宣言の発令に先駆けて店内利用の休止、テイクアウトのみの営業に切り替えた。

昨年度に定評を得ていた「週替わりランチ」を1食も出すことができなかった。2度目の緊急事態宣言が出されるに至ってはテイクアウトの需要もなくなり、何の手立ても打たないまま年度を終了した。それでも、できる範囲内でクリスマスフェアの企画やシュークリーム・チョコレート等生菓子の販売を行い、開店を続けた。お客様の来店を心待ちにしながらもチベーションを崩さない仲間の姿、それを支える職員の姿。苦しい時ほど見えものもあることを知った。

○菓子製造

体制不足のため一時撤退していた「はらぺこ便」を復活。仲間の姿や作業所のメッセージも一緒に掲載した「おたより版」に拡大することで、徐々に受注数を伸ばしている。

サクラティエのお菓子づくりの方向性が明になったこと、そして苦境に立たされた私たちを励ますメッセージ付きのご注文をたくさんいただいたことは、コロナ禍でこそ得られた喜びだった。

★令和2年度工賃実績

年間売上高 : 1245万円 (昨年度1078万円)
工賃支払総額 : 490万円 (昨年度 447万円)
平均工賃月額 : 20226円 (昨年度 16195円)
平均時間給 : 約210円

②利用者の自治活動

*あやべ作業所 自治会「はばたき会」

- ・役員会 全体会 月1回
※全体会はコロナウイルスの感染対策で密を避けるため各班で行なった。
 - ・当番活動 放送当番、掃除当番
 - ・クラブ活動
- ※新型コロナウイルスの影響で旅行も自粛し、対外的な活動もできなかった。

*ともの家 自治会

- ・コロナの影響で旅行に行けない代わりにともの家の中で食事会をした。
- ・毎年の映画館へ行く取り組みもできず、代わりに「ほのぼの屋」へ食事へ行った。

*サクラティエ 自治会「からあげくん」

- ・総会 年1回
- ・班ごとに、研修を兼ねた「おでかけレク」(京丹波町)
- ・研修旅行:計画せず
- ・クリスマス会など季節の行事も簡素に。

③くらしの支援

*グループホーム

年度初め、職員の濃厚接触者・発熱等で検査の間、何日かホームで待機をすることがあった。感染防止対策を強化する中、生活スタイルが変わり、仲間は我慢の日々で戸惑いやいら立ちもあったが、各ホームでは、この一年、感染防止に努め、工夫しながら買い物や外出の取り組みなどを行なった。仲間も世間の動きを感じ、徐々に協力し合い感染防止に取り組めるようになっていった。感染防止対策のため、入浴時のお風呂の清掃や、お湯の入れ替えも増え、また室内にいることも増えたためか光熱水費がたくさん掛かるようになってきた。利用者の負担の検討も必要になってくるが、保護者の事情等で通常の利用料の支払いも厳しい方が出てきたり、作業所での給料アップもなかなか難しい中、利用者の負担を上げるということは、簡単にはできない。

また、防災について、各ホームの防災計画、設備備品の確認・整理は今年度出来ず来年度へ持ち越しとなった。川沿いにある「ゆらりんホーム」は防災の問題や、建物自体の劣化もあり早急の対策が必要となってきた。

*相談支援事業

◎生活支援センター「えがお」

実績

①相談支援件数・人数

・年間相談件数	延べ件数 12,499件	実人数 289人
	(昨年度 10,616件)	(昨年度 295人)

(1) 障害種別 実人数内訳 (人)

	身体障害				重心	知的	精神	発達	高次脳	その他	計
	肢体	視覚	聴言	内部							
者	21	1	4	0	13	86	41	4	2	6	178
児	5	0	1	0	6	34	0	19	0	46	111
計	26	1	5	0	19	120	41	23	2	52	289
昨年	21	2	3	1	20	124	36	21	2	65	295

- ・平成26年度のえがお開設以降6年間の相談対応 実人数=618人
- ・実人数289人の内、計画相談支援対象外は70名。

(2) 相談・支援の内容別

- ア 福祉サービスの利用等に関する支援 年間 延べ 3,056件 (昨年度3,092件)
- イ 家族関係・人間関係に関する支援 年間 延べ 2,179件 (昨年度1,994件)
- ウ 健康・医療に関する支援 年間 延べ 1,639件 (昨年度1,344件)
- エ 不安解消・情緒安定に関する支援 年間 延べ 1,037件 (昨年度 628件)
- オ その他

(3) 相談方法別

- ア 訪問・同行相談 年間 延べ 1,565件 (昨年度1,634件)
- イ 来所相談 年間 延べ 1,961件 (昨年度1,596件)
- ウ 電話・メール 年間 延べ 3,336件 (昨年度2,448件)
- エ その他、関係機関との協議等

(4) ケース会議

年間 126回 (主催・出席) (昨年度100回)

(5) その他

- ア 卒業時の進路相談 (中丹支援学校・福知山高校三和分校・綾部高校)
- イ 綾部市療育教室 先輩保護者との交流会・保護者グループ懇談・個人懇談
- ウ 季節療育
- エ 精神保健家族会
- オ 親の会「あつぷるず」
- カ 北部高次脳機能障害リハビリ講習会
- キ その他

②相談・支援の内容

- ・相談員3名それぞれが新規ケースの担当や、1ケースの複数対応等をより進めていくことが出来た。
- ・障害児相談支援については、引き続き女性の相談員2名で分担している。次年度は全相談員が年齢・障害種別を問わない担当をできるようにケース担当を決めていく予定。
- ・主に就学前と就学後に分担する形になっていたが、未就学時児がやがて就学した後も、引き続き同じ相談員が担当出来るようになってきている。
- ・就学中の児童は、卒業後には障害福祉サービス利用や就労支援等の関わりが必要になることも多いため、ケースによっては、卒業前から担当を交替して長い見通しでの支援を継続でき

る準備をする予定。(ライフステージのスムーズな移行支援)

- ・ケース担当制であることから、一人で抱えることなく全体での情報共有が重要と考えているが、日々の対応に追われ、不十分である。次年度は朝の引継ぎ前の時間をその時間に充てることを計画している。
- ・毎日、複数回の電話が入るケースがあり、電話対応の件数が大きくなっている。ケースによっては、緊急度合い等を鑑みて、対応方法に悩むケースがあった。
- ・日中の他、時間外や深夜でも、業務用携帯電話へのメールで不安の訴えや対応依頼をされるケースも多数あった。
- ・コロナ禍にあっても訪問・来所相談の件数が大きく減少することはなかったが、特に重症心身障害があるケースでは、訪問系サービスの利用を極力避けておられる中、相談員の訪問を拒まれたり、こちらからも控えるようにしており、長らく本人と会えないままとなった。
- ・福祉サービス利用等に関する支援3,056件の内、もっとも件数の多いのは、通所入所施設等利用援助で1,723件。障害児通所支援の対応ケースが増えているため、通所サービスの中には、作業所等の他、児童発達支援、放課後等デイサービスが多く含まれている。ショートステイの利用援助では、利用はしたいが身近に利用できる施設が無いという相談が多数あり、利用に至らないケースもある。
- ・特にショートステイ利用援助については、利用の希望や必要性があっても、新型コロナウイルス感染拡大予防のために施設側が受け入れ中止されることで、利用を断念されるケースが複数あった。また、施設側の受け入れがあっても、利用を控えられるケースもあった。

③在宅重症心身障害児・者機能訓練事業「れいんぼう」(受託事業)

- ・綾部市から「綾部福祉会」が委託を受け、更に舞鶴赤十字病院に委託をする形で、毎月1回(年間12回)の計画で、訓練事業を実施した。
ただし、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、1回のみ実施を中止し、年間11回の開催実績となった。
- ・舞鶴赤十字病院のリハビリテーション課よりセラピストの派遣を受け、専門的なりハビリの中に、レクリエーションの要素を取り入れた作業療法をとり入れ、楽しみながら取り組むリハビリの時間をつくることが出来た。
- ・地域には成人期リハビリの機会が乏しく、本人や家族からのニーズやリハビリへの意識は高い。今後も本事業の継続は必要と感じている。
- ・親の高齢化が進んでいく中、家族参加を条件や内容充実のための体制等、検討課題となっている。

④療育教室「あいむ」保護者同窓会

- ・年1回の同窓会が恒例化してきており、楽しみにしてくださる保護者もあるが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況から、中止とした。

⑤自立支援協議会

- (1) 綾部市地域障害者自立支援協議会(全体会・相談支援部会・精神福祉部会)
- (2) 中丹圏域障害者自立支援協議会
(全体会・運営委員会・医療的ケア部会・相談支援事業所連絡会)
(※就労支援部会、発達障害部会、精神障害部会に「えがお」から参加する機会がなかった。)
- (3) 京都府障害者自立支援協議会
京都府障害者自立支援協議会人材育成部会員の委嘱を受けた。

⑥その他関係会議

- (1) 京都北部6福祉会会議
- (2) きょうされん関係会議
- (3) 中丹地域リハビリ連絡会議(オンライン)

- (4) 中丹地域難病対策地域協議会（文書）
- (5) 北部高次脳機能障害支援ネットワーク会議
- (6) 綾部市季節療育運営委員会
- (7) その他

⑦研修

- (1) きょうされん、6福祉会主催研修
- (2) 医療的ケア、精神保健、地域リハビリテーション、難病、ひきこもり支援、全障研（自主参加含む）など、多様な研修に参加することが出来た。
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインによる参加が複数あった。
※研修してきたことを持ち寄り、職員同志で共有する時間がもっと必要であった。

3. 2020年度計画のまとめ

①各部署の取り組み

- ・法人事務局：福祉事業を統括し、組織の安定・充実を目指す
管理者・職員とのコミュニケーションを大事にするとして、職員面談で意識的に取り組みました。普段なかなか話せない状況がありますが、機会を増やし、お互いを尊重し、共感、共有ができる良い組織にしたいと思っています。
人材育成の面では、プロジェクトグループを作って取り組み、研修会に取り組むことができたが、管理者以外の正規職員では、中途採用や経験の少ない職員も多く、管理者が抱える仕事が増えている現状もあり、普段の業務の中でも次につなげる取り組みを意識的にしていかなければならないと感じています。
ともの家の移転に向けて、家族会を中心とした募金箱の取り組みでは、市内300か所の会社・団体・店舗等に設置していただくことができました。あやべの作業所を育てる会からも多くの資金援助をいただきました。また、福祉会の資金作り、支える会準備会として、物品販売の取り組み、観光案内所の施錠管理に取り組みましたが、全体の取り組みとしてはまだ弱く、新しい後援会へつなぐための整理も必要だと思っています。
- ・日中活動支援部：日中活動の場の充実・発展に努めます
ともの家の移転新築が現実となりましたが、コロナ禍の中打ち合わせ等が行ないにくい状況もあり、移転間際まで現場は厳しい状況がありましたが、年明けからのともの家全職員の会議の積み重ねもあり、団結し、無事に移転にこぎつけることができました。
プロジェクト会議等での事業所間交流は、コロナ禍の中積極的に取り組めませんでしたでしたが、実践交流会の開催はでき、他の事業所の状況を少しでも理解することができたのではないかと思います。
- ・くらしの支援部：暮らしの問題や課題の解消に努めます
年度初めから、コロナ感染を身近に感じることもあり、感染防止には慎重に取り組みました。その中では、いろいろな制限をせざるを得ないこともありましたが、仲間と協力しながら行なえました。各ホームの防災対策、計画と備品の整理については次年度へ持ち越しとなりましたが、近年の激しい気候の変動や、ウイルスなどの災害に早めに整えておくことが必要です。
ゆらりんホームの現在の場所が川沿いであるため、豪雨では避難が必要となります。建物のゆがみも出てきているようです。そんな中、ハウスメーカーより、オーナー土地についての新情報がありました。今後の検討課題です。
相談支援事業では、基幹相談支援センターを綾部市より3年度委託を受ける予定のため、実施に向けて作業所の経験者を採用し体制を整えることができました。
- ・事務部：事業活動の会計の法令遵守に努めます
発展する事業のハード・ソフト面に、より柔軟に、もれなく対応するため常に前向きに取り組んだ。

国庫補助事業の新築移転をはじめ、事務体制や環境整備、職員労務の対応をすすめた。会計も増大し法令も改訂される状況下、事務会計職員体制はそのままに創意工夫を続けている。かねてよりネット環境が光通信でない事業所も、移行をすることができ、全事業所光の環境が整った。各行政の手続等で提供されている各種電子申請も、ようやく通信時間が短縮された。事務会計ではすでにクラウドを取り入れているが、今後も他のソフトで広めたい。職員給料の締日の変更は前期より調査研究を行い、令和2年度に新体制に移行をした。これにより働く職員の立場で、多種多様な働き方にも対応を進めている。会計実務者研修がリモートで受講できた。遠路開催が常で数年ぶりの参加となったが、リモートならではの移動時間不要で、情勢をはじめ大変充実した内容であった。今後とも新しい情報を取り入れた事務部体制を進めていきたい。

・各プロジェクトについて

ともこの家の移転新築：コロナ禍の中でありましたが、工事については天候にも恵まれ、遅れることなく無事予定通り竣工、移転できました。新たな地域の天神町の皆さんには、地域説明会ではたくさんの方の意見、質問をいただき、隣接するご近所の皆さんとは十分な話し合いをするなどして、ご理解をいただき、良好な関係が築けるのではないかと考えています。

人材育成のとりくみ：研修会などが中止や、web開催となるなど計画が難しい状況でしたが、全体で取り組む実践交流会が時期をずらして開催することができました。

資金づくり計画：次期プランと合わせて作成していく方向へ。

きょうされん映画「星に語りて」上映会：震災10年の機会に開催を考えていましたが、コロナ感染防止の観点から、2年度については実施を見合わせる事となりました。次年度以降で必ず開催の機会を作りたいと思っています。

次期のプラン作り：アンケートを実施することができ、次年度でこれを基に計画を作成していくこととなります。

・家族、地域の人たちとの協力協同の取り組みを進めます

コロナ禍の中、集まることは難しかったですが、ともこの家の移転募金の活動について、各作業所家族会の会長が集まり話し合いを持つことができ募金箱設置の活動ができました。

地域との交流についても、軒並み行事が中止となってしまいました。作業所の一大イベントで昨年30回目の節目を迎えた作業所まつりでしたが、31回目は中止となってしまいました。地域の行事としても定着していたまつりだけに残念です。

・他の作業所や団体等との交流・連携では、なかなか集まることは難しかった1年でしたが、きょうされんなど、Webでの研修会や会議等ができるようになり、繋がることができ、情報を取得したり交流することができました。

・綾部福祉会のホームページの運営・更新体制を作ります

広報の関係については、取り組むことができず持ち越しとなりました。

4. 理事会、評議員会の開催

理事会 (年間延べ出席率 96.7%)					
第15期 第5回	理事会	R2年	6月12日(金)	・監事出席	2
第15期 第6回	理事会	R2年	7月30日(木)	・監事出席	無
第15期 第7回	理事会	R2年	9月30日(水)	・監事出席	無
第15期 第8回	理事会	R2年	12月15日(火)	・監事出席	1
第15期 第9回	理事会	R3年	3月27日(土)	欠席1	・監事出席 1
評議員会 (年間延べ出席率 85.7%)					
第9期 第6回	評議員会	R2年	6月29日(月)	欠席1	・監事出席 2